

モンゴルと島田市の交流を林業でも深めたい

国際結婚をきっかけに、市内で「きこり」として働くモンゴル出身のムンフバトさん。日本の林業に魅力を感じ、その知識と技術を磨きながら、モンゴルに関する情報発信も積極的に行っています。

【日本の森の魅力】

「モンゴルは、森林の全てが国有林です。モンゴルで私は自然環境観光省に勤務し、全国を回って山や木の調査をしたり、測量をしたりして、森林整備をしています」

家業も林業だったため、幼少期から森に足を運んでいたというムンフバトさん。留学生だった麻里さんと出会い、結婚。来日後も林業を希望し、24歳の時に(株)ヤナザイへの就職をきっかけに島田に移り住みました。

「日常生活だけでなく、林業もゼロからのスタートでした。モンゴルと日本では気候が異なるため、木の種類や成長が全く違うんです。モンゴ

ルは乾燥していて、冬はマイナス30℃になるほど。子ども頃に植えた木が、ようやく自分の背丈を超えました。それなのに、日本で初めて植えた木はもう3〜4mになっています。日本は降水量が多い

で話すムンフバトさん。その魅力は、年月をかけ次につなげていく一連の流れにあると言います。

「例えば、米作りは一年。春に植えたら秋に収穫できますが、木は違って一世代。植林し



森の魅力伝える「きこり」
ニヤムジャウ
ムンフバトさん (大代)

ので、成長スピードが早いんです。日本の森は、成長がよく見えて楽しいですね」

【森を支える「きこり」】

「山の仕事は気持ちがいい」と、生き生きとした表情

て、翌年には下草を刈り、木が大きくなれば枝払いや間伐もします。50年以上経つてようやく材木になり、また植林してと循環しながら、次の世代へとつなげているんです」
木と共存しながら森を管理

する毎日も、その先を考えることも、全てが楽しいと穏やかに笑います。

【いつか「森の学校」を】

林業に携わる傍ら、ムンフバトさん夫婦はモンゴルに関する情報を発信。一人でも多くの人がモンゴルに興味を持ち、行ってみたいと思ってほしいと語ります。

「3年ほど前から、『ちょっととモンゴル』と題したイベントを開催しています。モンゴルのお正月体験や文化の紹介、料理教室や語学講座など、毎回テーマを変えています。島田市がモンゴルボクシング競技代表選手のオリピック事前合宿地に決まり、県内には他の競技のモンゴルチームもやって来ます。一過性な盛り上がりで終わるのではなく、これをきっかけに何か一緒にできればと考えています」

いつか、両国をつなぐ林業の教育機関を作りたいというムンフバトさん。抱く夢を穏やかに語るその瞳には、命を懸けて山に向かう時と同じく強い意思が表れています。



伊久美の山林で高所作業をするムンフバトさん

Shimadajin File #74

Story 島田人